

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02699

研究課題名（和文）保育のグローバル化時代における北欧の専門職教育の改革

研究課題名（英文）ECEC teacher education reform in Nordic countries in the era of globalization

研究代表者

中田 麗子（Nakata, Reiko）

信州大学・教育学部・研究員

研究者番号：40532073

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、保育・幼児教育（以下、保育）の世界的な潮流の中で、保育および保育者養成がどのように改革されてきたかを、北欧を事例に明らかにすることを試みた。近年、各国は保育政策を重視し様々な改革を行っているが、保育が「学校化」されたり、「質とハイリターン」といった経済的なロジックで捉えられていることに批判や懸念もある。従来、子どもや発達をホリスティックに捉えるソーシャルペダゴジーの伝統がある北欧も、世界的な潮流の影響を受けている。この影響に対して、ノルウェーとスウェーデンの保育・保育者養成改革がどのように応答し、制度や政策に反映してきたのかを明らかにすることを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで我が国では、北欧の保育についてスウェーデンを中心に研究・紹介されてきたが、本研究では調査対象にノルウェーを加えることで、北欧の保育についての理解の多層化に寄与した。特に、「学校化」の潮流に関連して、両国では保育における「遊び」と「学び」の位置づけが異なることが明らかになった。また、ノルウェーでは、標準化されたプログラムやアセスメントが浸透し、保育教員の専門性が問われる状況にあるが、批判的視点を提供しうる新たな方法論を探究する動きも見られる。このことは、我が国の保育者養成・保育研究にも示唆を与えてくれる。

研究成果の概要（英文）：This study attempts to clarify how teacher education of early childhood education and care (hereafter referred to as ECEC) professionals have been reformed in the global trend of ECEC, using the Nordic countries as a case study. In recent years, various countries have placed importance on ECEC policies and implemented a variety of reforms. However, there are criticisms and concerns about the "schoolification" of ECEC and the economic logic of viewing it in terms of "quality and high returns." Traditionally, the Nordic countries have a tradition of social pedagogy that considers children and development holistically. Nevertheless, they are also influenced by global trends. This study seeks to elucidate how Norway and Sweden have responded to these influences in their ECEC and its teacher education, and how these responses have been reflected in their systems and policies.

研究分野：比較教育学

キーワード：保育・幼児教育（ECEC） 保育者養成 北欧 ノルウェー スウェーデン

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、保育・幼児教育（以下、保育）政策をめぐる2つの国際的な潮流がある。

第一に、保育が各国において重視され、様々な改革と投資がなされてきたということである。乳幼児期への投資の有効性が唱えられるとともに、保育施設の量的拡大、幼保一体化、質保証など制度的な整備が世界的に進展している。このような中で、保育者の専門的力はますます重要になってきている。

第二に、こうした近年の保育改革について、懸念や危惧も指摘されていることである。例えば、乳幼児期独自の保育実践の場に学校的なアプローチが導入される「学校化（schoolification）」（OECD, 2001等）や、「質とハイリターン」および「市場」の物語という新自由主義的な言説が支配していること（Moss, 2014）についての批判がある。

北欧における保育は、従来、生活を基盤として子どもや発達をホリスティックに捉えるソーシャルペダゴジーのアプローチをとってきた。これは、英米仏を中心とした就学準備アプローチとは異なるものである。また、市場化が進む英国などに比べて、北欧の保育制度は市場化の悪影響を抑えうるといって指摘もある（Lloyd & Penn, 2014）。しかし、90年代以降、北欧の教育領域においても脱集権化や結果による統制などの改革が進展した。また、スウェーデンでは保育カリキュラムに「授業」という概念が導入されるなど「学校化」の傾向も見られる。

そこで、本研究は、「ホリスティック型」「ソーシャルペダゴジー」の伝統をもつ北欧の保育が、世界的な潮流である新自由主義的な政策や「学校化」にどのように応答し、制度や保育内容、そして保育者養成に具体化してきたのか、という問いを設定した。

2. 研究の目的

上記の問いに基づき、本研究では北欧諸国のうちノルウェーとスウェーデンを取り上げ、以下の目的を設定した。まず、90年代以降の保育および保育者養成課程の制度と内容の変遷を明らかにすることである。さらに、これらの改革、制度、内容について、何が課題とされ、論点となってきたのかを明らかにすることである。特に後者については、ノルウェーとスウェーデンが新自由主義的な言説や「学校化」にどのように応答してきたのかについて検討を行うことにした。

3. 研究の方法

本研究は、当初3年間の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により1年間延長され4年間で行った。この中で、文献調査と現地調査を組み合わせ、両国の保育・保育者養成の変遷およびその論点を明らかにしようとした。

文献調査では、ノルウェーおよびスウェーデンの保育および保育者養成の政策・制度やその改革に関する政策文書および文献を収集し、整理した。現地調査では、主に保育者養成をしている大学（ノルウェー：オスロメトロポリタン大学等；スウェーデン：ウプサラ大学等）を訪問し、関係者へのインタビューを行った。また、両国の保育施設を訪問し、保育者にも話を伺った。

4. 研究成果

研究成果として、以下の3点を挙げる。なお、ノルウェーの保育施設は幼稚園（Barnehage、子どもの庭の意）、スウェーデンの保育施設はプリスクール（Förskola、プリスクールの意）であるが、本稿では混乱を避けるため両者ともに保育園とする。また、両国の保育施設で働いている専門資格をもつスタッフはそれぞれ幼稚園教員（Barnehagelærer）およびプリスクール教員（Förskollärare）だが、こちら本稿では保育教員と称する。

第一に、ノルウェーおよびスウェーデンの保育・保育者養成の変遷を整理したことで、保育教員養成における「ペダゴジー（教育方法/保育方法）」の位置づけが論点になっていることが明らかになった（Nakata, 2021）。ノルウェーでは、保育教員養成課程の枠組みが、1995年、2003年、2012年に制定・改定されている。1995年、2003年にはペダゴジーが独自の科目として設定されていたが、2012年にはペダゴジーはすべての教科に統合されるべきものとして位置づけられた。すなわち、独自の科目としての履修単位が設定されていない。保育教員養成大学では、ペダゴジーを専門とする教員が教えるのか、あるいはすべての教科（領域）専門の教員がペダゴジーを教えるのか、という具体的な問題として表出しており、大学により組織の仕方が異なる（Følgegruppe for barnehagelærerutdanning, 2017）。スウェーデンでは、2001年にプリスクールを含めたすべての学校種の教員養成が、異なる方向性を選べる単一の課程に統合されたが（Linne, 2010）その約10年後にはまた学校種ごとの養成課程に改定された。プリスクール教員養成課程では、必要単位数210HPのうち、プリスクール・ペダゴジーが120HPを占める。この変化について、ダールベリは、プリスクールが学校に比べて正当性が低い現状においては、異なる

学校種の教員養成を統合するのは問題で、プリスクールをよく知る人々がプリスクール教員を養成すべきであるとしている (Dahlberg, 2012)。これは、プリスクール・ペダゴジーの正当性の問題とも言い換えることができるだろう。

第二に、保育の「学校化」の潮流に関して、ノルウェーとスウェーデンではその受容に違いが見られることが明らかになった。具体的には、保育カリキュラムにおける「学び」と「遊び」の捉え方の違いである。ノルウェーの保育カリキュラム(2017年版)は、冒頭で「子ども期は独自の価値があり、子どもの発達をホリスティックに捉えるべき」であるとし、「遊び、ケア、学び、人格形成は互いに関連するものとして捉えられる」としている。これは、ソーシャルペダゴジーの伝統を色濃く反映している。一方、スウェーデンの保育カリキュラム(2018年版)では、冒頭で「プリスクールは学校種のひとつ」であり、「すべての子どもの発達と学び、そして生涯学び続ける意欲を促進する」とされている。ホリスティックな見方や遊びの重要性も述べられているが、遊びは「子どもの発達、学び、ウェルビーイングにとって意義がある」と位置付けられている。スウェーデンはノルウェーよりも10年ほど早い96年に保育園が教育省の管轄に移り、管轄法も学校教育法に統合された。カリキュラムに「授業」という概念が導入されたこともあわせて、保育園が学校段階の一つ目の機関であり、生涯学習の第一歩だという位置づけが現れていると言える。なお、ノルウェーでは現在、「遊び」の概念は活発に議論されており、例えば「ガイドされた遊び」といった概念が登場している (Kunnskapsdepartementet, 2024)。この議論の行方が注目される。

第三に、ノルウェーの保育教員養成大学において保育研究の新しい方法論を探究する動きがあることが分かった。ノルウェーの保育現場では、2010年代ごろから標準化されたプログラムやアセスメントが浸透し、保育教員の批判的な吟味や応答的な実践に相対するものとして批判されてきた (Pettersvold & Østrem, 2019)。このような状況の中、保育教員養成がどのように批判的な視点を提供しようかという課題意識が一部の研究者に共有されている。2014年にオスロメトロポリタン大学で誕生した研究グループ(現在の名称は MUBU)は、保育研究の方法論の探究を重視しており、プロセス哲学、フェミニズム、ポストヒューマン、ニューマテリアリズムなどの理論を参照し、ポスト質的な方法論を保育研究にどのように織り込めるのか、またそれによってどのように新しい知識を創造できるのかを様々に実験している (Otterstad Myre & Lorvik Waterhouse, 2023)。標準化されたプログラムやアセスメントが質向上やアカウンタビリティという言葉のもとで導入されていると考えれば、同研究グループの動きは、こうした世界的な潮流に対するひとつの応答として注目すべきだろう。

【参考文献】

- Dahlberg, G. (2012) A dialogue with the co-author of 'the vision of a meeting place'. In Moss, P. ed. (2012) *Early Childhood and Compulsory Education: Reconceptualising the Relationship*. Abingdon: Routledge.
- Følgegruppe for barnehagelærerutdanning (2017) *Barnehagelærerutdanninga. Styrker, svakheiter og gjensitridige utfordringer*. Sluttrapport frå Følgjegruppa for barnehagelærerutdanning til Kunnskapsdepartementet. Rapport Nr. 5.
- Kunnskapsdepartementet (2024) *Et jevnere utdanningsløp - Barnehage og skole/SF0 som innsats mot ulikhet blant barn*. Rapport.
- Linné, A. (2010) *Lärarytelse i historisk belysning*. www.lararnashistoria.se.
- Lloyd, E. & Penn, H. (2014) *Childcare markets in an age of austerity*. *European Early Childhood Education Research Journal*, 22:3, pp.386-396.
- Moss, P. (2014) *Transformative Change and Real Utopias in Early Childhood Education: A Story of Democracy, Experimentation and Potentiality*. Abingdon: Routledge.
- Nakata, Reiko H. (2021) *Schoolification of Nordic ECEC policy and its implication to teacher professionalism*. EECERA ONLINE FESTIVAL 2021, 1st - 17th September 2021.
- OECD (2001) *Starting Strong: Early Childhood Education and Care*. Paris: OECD Publishing.
- Otterstad Myre, C. & Lorvik Waterhouse, A.H., eds (2023) *Metodologiske ut-viklinger: Om kvalitativ og post-kvalitativ forskning i barnehagefeltet*. Fagbokforlaget.
- Pettersvold, M. & Østrem, S., eds (2019) *Problembarna: Manualer og metoder i barnehage, skole og barenvern*. Cappelen Damm Akademisk.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中田麗子	4. 巻 90(4)
2. 論文標題 <図書紹介> 秋田喜代美・古賀松香編著『世界の保育の質評価－制度に学び、対話をひらく』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 615-616
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田麗子	4. 巻 187
2. 論文標題 海外保育実習－ノルウェーの取り組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本保育学会会報	6. 最初と最後の頁 9-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田麗子	4. 巻 -
2. 論文標題 【北欧の教育最前線】コロナ禍で変化 ノルウェーの幼稚園の給食問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田麗子	4. 巻 -
2. 論文標題 【北欧の教育最前線】社会統合を促進する子育て支援センター	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田麗子	4. 巻 216
2. 論文標題 幼小接続期の活動を考える ノルウェーにおける6歳児改革	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊教育法	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田麗子	4. 巻 63
2. 論文標題 ノルウェーの幼児教育・保育における標準化と学習重視の動き H.F.ダーレの博士論文をめぐる論争に焦点を当てて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 33~46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5998/jces.2021.63_33	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 中田麗子
2. 発表標題 ノルウェーの教員養成: 「主流」ルートの高度化と教員不足
3. 学会等名 日本教師教育学会 第33回研究大会 課題研究III
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Reiko H Nakata
2. 発表標題 Parental involvement in ECEC in the era of marketization: comparison of policy documents in Scandinavian countries
3. 学会等名 NERA Conference 2024 (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Reiko Hayashi Nakata
2. 発表標題 Controversy on Early Childhood Education and Care policy and pedagogy in the era of marketization : the case of Norway
3. 学会等名 NERA Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中田麗子
2. 発表標題 北欧の幼保小接続
3. 学会等名 日本比較教育学会 第57回大会 課題研究
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Reiko Nakata
2. 発表標題 Schoolification of Nordic ECEC policy and its implication to teacher professionalism
3. 学会等名 EECERA Online Festival 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 中田 麗子、佐藤 裕紀、本所 恵、林 寛平、北欧教育研究会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 北欧の教育再発見 ウェルビーイングのための子育てと学び	

1. 著者名 日本教師教育学会 第11期課題研究 部、佐藤仁	4. 発行年 2024年
2. 出版社 学術研究出版社	5. 総ページ数 220
3. 書名 多様な教職ルートの国際比較：教員不足問題を交えて	

1. 著者名 園山大祐、辻野けんま	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 264
3. 書名 コロナ禍に世界の学校はどう向き合ったのか 子ども・保護者・学校・教育行政に迫る	

1. 著者名 北欧教育研究会，林寛平，本所恵，中田麗子，佐藤裕紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 北欧の教育最前線 市民社会をつくる子育てと学び	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

スウェーデン	ウプサラ大学			
ノルウェー	オスロメトロポリタン大学			